



# YMCA News

# 12

2017年12月10日発行  
 特定非営利活動法人  
 盛岡YMCA  
 〒020-0015  
 盛岡市本町通 3-1-1 Tel  
 019-623-1575  
 Fax 019-623-1579  
 www.moriokaymca.org  
 発行人 / 濱塚 有史編  
 集 / 本部事務局



## 「最前線の隣で」

日本キリスト教団 内丸教会 副牧師 中原 陽子

夕方7時過ぎ、内丸教会築90年の牧師館に呼び鈴が響く。同時に「こんばんはー！YMCAリーダー〇〇です！」のインターホンとドア越しに丁寧な威勢のいい二重奏のご挨拶。はいはいはい〜と寒さに身を縮めながら対応。「今日はリーダーの話し合いで二階を使います！」と元気に報告され、あっという間に会堂二階に消えていく。会堂の二階をリーダー部屋として貸し出して二年。きれいに会堂を使い、朗らかで活きのいいリーダーたちは教会の人気者だ。三々五々、リーダー活動や、大学・専門学校の授業を終えたリーダーたちが集まっている。リーダーとして必要な知識や技術の研修、プログラムの内容を企画〜反省等の為集まるようだ。たまに激しく意見の応酬も。時々お裾分けの差し入れを持ち階段に佇み、入りそびれたことも二三度ではない。皆真剣だ。かとおもえば、次の瞬間大爆笑が二階の扉に響く。さっと襖をノックし、雀の涙ほどのお裾分けに「ありがとうございますーっす！」お礼の大合唱。申し訳ないほどの量ですが...

空のお盆を抱えながら、自分が大学生だった頃を思い出す。ほとんどの時間を、いやほぼ全ての時間を私のためだけに使っていた。勿論、牧師になる過程で様々なボランティアをした。しかしそれはあくまでも「今後牧師になった時の糧」として、したたかに関係作り、経験値を上げるためではなかったか。「子どもたちの笑顔がすき」「みんなで協力して作り出す喜び」彼らは言う。その純粋な思いに感心する私に濱塚総主事は「そうですかね〜ぬはは」と笑っている。大らか隊長ここにあり。今日も話し合いが終わったようだ。解散する彼らを二階の部屋からそっと眺める。学童の仕事を終えたスタッフもいつの間にか参加されていたようだ。頭の下がる思いだ。「この若者らがこれからも生き活きと人生を過ごせるように」「よき人たちと出会い、YMCA魂を持ち続けられるように」最前線の隣、牧師館で静かに今日も祈っている。



## 盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。



## 第6回 盛岡YMCAチャンピオンズカップ 報告

11月3日(金・祝)、今年で6回目となる「盛岡YMCAチャンピオンズカップ」が岩手県立大学サッカー場にて行われました。チャンピオンズカップは盛岡YMCAの本町・土淵・盛南・向中野・高松・盛北・篠木の各サッカースクールと、宮古サッカースクールの8つのサッカースクールの子どもたちが一堂に会し、カテゴリー別に真剣勝負をし最強サッカースクールを決める大会です。

本町スクール16名、土淵スクール11名、盛南スクール3名、向中野スクール7名、高松スクール8名、盛北スクール5名、篠木スクール16名、宮古スクール20名の計86名による選手と、26名のリーダー・スタッフ、合計112名の声が初冬の空に響き渡りました。

まずは1・2年生による「Aグループ」。この年代はチームというよりも自分がボールを蹴りたいという願望が大きく、ボールが転がっている場所に選手が集まってくるという場面が多くありました。でもそれが、「サッカーが好き!」という意識を強く植え付けるため、とてもいい事だと思います。初めて参加する選手が多く、珍プレイ・好プレイが数多く生まれましたが、転んでは起きを繰り返し、大人顔負けのボールへの執着心を感じました。優勝チームは「宮古」!勝因は、ボールに食らいつく執念と昨年圧倒的強さでこのカテゴリーを制した先輩たちの大声援だと思えます!

3・4年生による「Bグループ」。この年代は個人技術に加えてチームを意識しはじめる年代です。見どころはやはり昨年グループ優勝を飾った「宮古」と「MIYAKO」に盛岡のチームがどう立ち向かうかです。宮古の2チームは前回よりはるかにパワーアップしました。サッカーに対する気持ちが本格的になってきており、個人技術もすばらしいものがありました。その宮古チームを破って優勝したのは「土淵・高松」!勝因は、「声の掛け合い」です。声をかけあって、誰かのミスしても誰かがカバーする、そしてやめることなくチャレンジを繰り返した結果でした。なんでもすぐに吸収してしまう「ゴールデンエイジ」と呼ばれるこの年代、この大会をきっかけに成長していくと確信しました!

5・6年生による「Cグループ」は、チャレンジしながらも、どうしても・・・という「考える」サッカーができる年代です。ドリブルなのか、パスなのか、選択肢をチームでたくさんつくり、一番いい方法でゴールを決める。サッカーの本質に近づいた見ごたえのあるグループです。優勝したのは「土淵・高松・向中野」!体の強さも、テクニックも使えるものは駆使し、見事カップを手に入れました!ただ、惜しくも決勝で敗れた「本町」は勝負へのこだわりが強くみられ、泥臭くそしてゴールへの執着心がとても強く、見ていて応援したくなるとても良いチームだと感じました。

どのグループもどのチームも勝つ事を念頭にゴールを意識し、サッカースクールでやってきたことをチャレンジしているため、名勝負がたくさん生まれた良い大会だと思えます。その大会を盛り上げた大学生ボランティアリーダーの存在も忘れられません。選手のために会場をつくり、試合が始まると大きな声で激を飛ばし、子どもたちの話し合いも一緒に行い、ゴールを決めるとコート内に走って入ってきて選手以上に雄たけびをあげているリーダーがたくさんいました。このリーダー達のパワーがあれば今回の盛り上がりはなかったと言っても過言ではないのでしょうか。

来年もまたチャンピオンズカップを行います。そこに集う選手やリーダーが、1年でどう変化してくるのか、どう成長してくるのかとても楽しみです!!

YMCAに集う子どもたちやリーダーの無限大のパワーを感じる事ができる素敵な空間に立ち会えたこと、そしてその空間と時間を大切にしていこうと改めて感じました。

会場となった岩手県立大学様はじめ、応援してくださいましたワイズメンズクラブの方々や保護者の方々、ご協力いただき大変感謝しております。ありがとうございました。

YMCAサッカー大会担当スタッフ  
東森 聡



## 国際協力街頭募金

2017年11月23日(木)、今年も国際協力街頭募金を行いました。未就学児の子から、YMCAの各プログラムメンバー、中学生、ボランティアリーダー、社会人リーダー、ワイズメンズクラブ、スタッフまでとYMCAの総力を結集した52名の方々が当日ボランティアとして集い、開運橋のもと、川徳前、大通り安全十字路、ななっく前の4か所で11時から15時までの4時間の間、



活動を行わせていただきました。当日は天候も思わしくない中、大勢の方が私たちの声に耳を傾け、立ち止まり、募金をしてくださいました。皆様の多大なお力添えで今回の募金総額は163,942円となりました。この総額から道路使

用料や送金手数料等を差し引いた金額をギリシャ・パレスチナ等の難民支援やフィリピン・ネパールへの災害被災地支援、カンボジア・タイへの教育支援等の支援のために日本YMCA同盟を通して送金させていただきます。私たちに少しでも時間をさいてくださった皆様には、心より感謝申し上げます。また、国際協力街頭募金活動は、街頭に立って市民の方々に募金を募り、海外の困っている人たちへの助けとしていく事が大きな目的の一つであります。

それとともに、ボランティアとして参加した子どもたちや若者たちが、顔も知らない誰かのために自分の時間と力を捧げるといった経験を通して、人の悲しみをともに悲しみ、人の喜びをともに喜ぶ事のできる人に育って欲しいと願い、この活動を行っております。これからも街頭募金活動は継続的に行ってまいります。また、11月から3月31日までの期間、国際協力募金を募らせていただいておりますので、引き続き皆様にはご理解・ご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。



今回の国際協力街頭募金活動に関わってくださったすべての方に感謝申し上げます。本当に有難うございました。

国際協力担当 小川嘉文



## 第35回 岩手県少年サッカー新人大会

11月4日から12日までの期間で第35回岩手県少年サッカー新人大会に盛岡YMCAベストキッズが参加してきました。今回はベストキッズの3～5年生が選手として登録し、戦ってきました。今まで先輩たちが積み上げてきた「強く・たくましく・頼もしく」というチームとしての目標を自分たちがそのまま引き継ぎようとするのではなく、今までの伝統に加え、自分たちらしい新しいチームを作っていくという新チームの初陣でした。1試合1試合に目標と闘う気持ちを作って挑み、相手がいくら強かろうが、負けていい試合なんてないと自分たちで諦めずに闘っていました。結果としては1勝3敗1分で予選グループ5位となり決勝トーナメント進出とはなりませんでした。

今回の敗退で今シーズンの大きな大会は終わってしまったのですが、これからのオフシーズンに自分に厳しく、仲間に優しく少しずつ確実に積み上げ、良いチームになっていきますので、今後も応援よろしくお祈りします!

盛岡YMCA ベストキッズ担当スタッフ  
向平 悟(Gパンリーダー)



## 11月アドベンチャー 「馬と一緒に遊んじゃおう！」

11月26日、馬っこパークで11月アドベンチャーが行われました。この日は寒く雪が積もる中でしたが、子ども22人、リーダー18人で元気いっぱい活動しました。まず馬小屋の掃除をグループ毎にしました。ポロ(馬のフン)が散らばる馬小屋に入るのに抵抗がある子、おかまいなしと入って行く子とそれぞれでしたが、どんどんやっていくうちに、ポロを集める達人、ポロと土を振り分ける達人、おがくずを綺麗に敷き詰める達人が現れ、馬小屋掃除にはまってくれた様でした。また、一人一人が馬のことを思って掃除をすることが出来ました。お昼ご飯の後は、乗馬体験をしました。近くで見るととても大きく凛々しい馬に、初めはドキドキしている様子でしたが、乗馬をしている子どもたちの表情はドキドキの中にも嬉しさやワクワクが入り混じっているようでした。乗馬後は自然と乗せてくれた馬に對

し、「ありがとう」という言葉をかけていました。

施設の方へ馬に関する質問タイムでは、沢山の質問が出ました。好きな食べ物嫌いな食べ物、走る速さや、馬の気持ちなど様々でした。子どもたちは沢山の興味を持ってくれたようでした。フリータイムではまず馬に人参をあげました。自分たちが掃除をした馬小屋の馬に餌をやったり、手渡しに挑戦したり、馬が出す餌を欲しがっているサインを見て餌をあげたり、みんな馬と沢山の接することが出来ました。その後はグループの垣根を超え雪遊びをし、楽しい時間を過ごすことが出来ました。今回の活動では、馬との関わりを通して、命の大切さを感じる事が出来ました。

盛岡YMCA アドベンチャー担当  
武田 悠(ゴリナリーダー)



## 「ウィンターキャンプ」 リーダーの意気込み

こんにちは!今回エンジョイスキーキャンプのリーダーを務めさせていただきます、チーズです。エンジョイスキーキャンプは12月26日～29日の4日間にわたるスキーキャンプになります。このキャンプはスキー靴を履くところから子どもたちや急な斜面もががが滑ってしまう子どもたちまでのみんなが集まって3泊4日を過ごします。2日目からはジュニアスキーキャンプのみんなとも合流してさらに大人数でのキャンプになります。4日間、子どもたちはいろいろなことに挑戦すると思います。「できた!」「たのしい!」をたくさん共有できる、そんなキャンプにしたいです。今年を締めくくる最後のキャンプ。今からどんなキャンプになるのかとても楽しみです!よろしくお祈りします。



盛岡大学児童教育学科 三年  
小野寺保乃香  
(チーズリーダー)



岩手大学教育学部 二年  
東 彩由海  
(マックスリーダー)

みなさん、こんにちは!ジュニアスキーキャンプのリーダーのマックスです!ジュニアスキーキャンプは2泊3日のスキーキャンプです。楽しくバスで移動してスキー場に到着するとエンジョイスキーキャンプのたくさんの友達が出迎えてくれて合流します!ジュニアスキーキャンプのリーダーは個性が強くて面白い人ばかりです。大食いリーダー、ちょっと天然なリーダー、すっぱい果物のリーダー...などなど...。スキーキャンプに行くリーダーの紹介のチラシを作ったのでチェックです!大人数でのキャンプになりますが、みんながひとつになってスキーをしたり、夜は遊んだりできるように、安全に気をつけて、そして楽しく、2泊3日をすごしていきたいと思うのでよろしくお願いします!

私からは1月6日(土)から2泊3日で行われるダイナミクススキーキャンプについてお伝えします!このスキーキャンプには、スキーが初めての子どもやリーダー、またキャンプが初めての子、キャンプが大好きな子など...様々な仲間たちが集まります。どんなキャンプになるだろう?どんなお友達が出来るだろう?スキーレッスンってどんな感じだろう?不安もあると思います。でも、それをずっと上回るくらいにわくわくドキドキを持って当日集合してください。色々な仲間たちが集まるからこそ、このメンバーだからこそそのキャンプにできることを楽しみにしています。スキーもホテルのお部屋もご飯もプログラムも全部全部みんなで楽しみましょう!



岩手大学人文社会学部 三年  
菊池 望  
(サンリリーダー)

## 「ポジティブネット」

「はあ…？ ポジティブネット?!」これが初めてこの言葉を聞いた時の僕の正直な感想だ。既に皆さんご存知だと思うが、盛岡YMCAのニュースの体裁が先月号から大きく変化している。これは、日本のYMCAが長い時間をかけて準備を進めてきたブランディングによるものだ。2017年10月から盛岡も含め日本にあるYMCAは、統一のロゴ、マークを用いながら「互いを認め合い、高め合う『ポジティブネット』のある豊かな社会を創ること」をビジョンに掲げスタートしたのである。

当初、「ポジティブ」と「ネットワーク」という今流行りの言葉を無理やりくっつけたようなこの造語に強烈な違和感を覚えた。そんな中、ある人が「ポジティブ」の語源について教えてくれた。本来はラテン語の「置く」を表す言葉から来ているらしい。「とりあえず置いてみる」というニュアンスだそうだ。

何か、新しいことを始めようとすると勇気がいる。失敗したらどうしよう?みんなからどう思われるだろう?と考えるとなかなか一歩が踏み出せない。電車の中で、席を譲ろうと思った時「かえって失礼になるのでは?」などと思いを巡らしている内に、当の本人が降車してしまったり。そんな経験をしている人は僕だけではないだろう。

また、散々努力したにもかかわらず失敗したことをもう一度チャレンジすることは、相当、勇気とエネルギーを必要とする。

そんな時、「とりあえず一歩を踏み出して見る」「そのような場所に自分自身を置いて見ることから始める」こうした意味を持つこの言葉に、なんだか愛着を覚えてきた。

「ポジティブネットのある豊かな社会を創る」これは日本のYMCAにとっても小さな盛岡YMCAにとっても大きなチャレンジである。日本の社会を変えるなどという壮大なことは、イメージすることすらできない。しかし、盛岡YMCAが置かれた地域において一人ひとりとの出会いを大切に、丹念にそうした社会の実現を目指していくことは、なんだかできそうな気がしてきた。

YMCAの大先輩である関田寛雄牧師が、かつて我々スタッフに向けて語った以下の言葉を思い出した。「YMCAは他者のために存在する。自己目的のために存在するのではない。」

**シモンは、「先生わたしたちは、夜通し苦労しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、網をおろしてみましよう。」と答えた。**

(新共同訳聖書 ルカによる福音書 5章:5節)

盛岡YMCA総主事 濱塚有史

## ネパールでしろくまも考えた①

10月16日から26日にかけて約10日間、盛岡YMCA本町センターの家村知佳スタッフが、もりおかわイズメンズクラブの皆さんたちとネパールを訪問してきました。

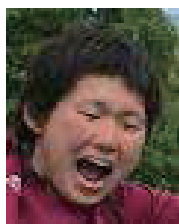
好評「〇〇も考えたシリーズ」第3段。ネパール編が始まります。

### 「多民族国家」

昔、ネパールと言う国が出来る前は、そのあたりはいくつもの独立した小国が集まる地域だった。しかし、その小国の中の1つであったゴルカ王国が次々と周りの王国を征服し始め、1768年ついにネパールを統一した。現在のネパールの基盤となる「ネパール王国」の誕生である。そういった背景から、ネパールは様々な民族が集まる国となったのである。

ネパールには93の異なる言語や地域語を持つ100以上の民族が暮らしている。民族の区別は地域やカーストによって分けられている。数も多くだいぶ複雑である。実際に、私がネパールを歩き回っていると、様々な顔立ちの人が入り混じっていた。私が見てわからなくても、ガイドのラビンドラさんは「あの人は〇〇族、さっきの人は××族」などと瞬時に見極めていた。様々な民族の中には日本人に似た顔立ちの人たちもいて、ネパール人と間違えられて声をかけられることもあった。

また、いろいろな地域を訪問しながら、様々な民族の文化も少しだけ見ることができ、それもネパールの魅力の1つだと感



盛岡YMCA  
家村知佳  
(しろくまりーダー)

じた。それぞれに伝統的な音楽や踊り、暮らしぶりがあって、特徴を見比べるだけでも十分に面白かった。しかし、時代の流れとともに昔ながらのものがどんどん消えていっていること感じた。実際にそこで生活する人のことを考えたら、発展して便利になっていくことが何よりなのだろうが、どうしても寂しく思えてしまう。観光客の勝手な希望であるが、それぞれの民族の文化がこれからもずっと日常から消えないでほしいと切に願う。きっと、日本も他の国の人からこのように思われているんだなあと感じた。国が発展していくときに、その国らしさを失ったら外国人から得ていた魅力も消えていく。ネパールも日本も、もちろんどの国も魅力的であり続けてほしいと感じたネパールの旅だった。次回以降のところそんなネパールの文化などについても具体的に紹介していきたい。

### 表紙の写真から



「仲間と共に心の底から喜び合っていて、なんかいいですね。」  
11月3日(祝)岩手県立大学を会場に開催された、盛岡YMCAのサッカー大会「チャンピオンズカップ」高学年の部 準決勝PK戦のシーン